

第 53 号

発行日 平成 22 年 1 月 4 日

九州森林管理局 指導普及課

〒 860-0081

熊本市京町本丁 2 番 7 号

TEL 096-328-3593 FAX 096-326-7062

Eメール: ky\_fukyu@rinya.maff.go.jp

みどりと  
技術だより



沖九州森林管理局長

11 月 11・12 日の両日、九州森林管理局大会議室において、「平成 21 年度森林の流域管理システム推進発表大会」が開催され、九州・沖縄各県の森林・林業関係者や当局・署の職員、熊本県や佐賀県の森林・林業を学ぶ高校生など約 200 人が参加し、地域や職場、学校で取り組んだ森林・林業の技術開発や普及事例など 22 課題を発表しました。

開会式では、発表大会の主催者九州林政連絡協議会長の沖修司九州森林管理局長が「九州の森林とりわけ人工林は大変充実してきており、全国においてリーダー的存在となってきました。こうした中、私達は『九州から林業をどう再生するのか』を課題に、民・国が連携し取り組

んでいます。本大会の成果がそのような取組に貢献できるよう期待しています」とあいさつ。

その後、高校生の部 5 課題、一般の部 17 課題が 2 日間にわたって発表されました。また 2 日目は、宮崎大学の藤掛一郎教授と熊本大学の田口浩継准教授による特別講演「九州林業の成長と展望」、「熊本県における木育推進の現状と課題」がそれぞれ行われました。

最後に、審査委員長の中村松三森林総合研究所九州支所長が課題ごとに講評を行い、一般の部において九州林政連絡協議会長賞 5 課題（うち最優秀賞 1 課題）と日本森林技術協会理事長賞 1 課題、高校生の部において九州森林管理局長賞 2 課題が表彰され、2 日間の発表大会を終了しました。



会場の様子

# 表彰課題

一般の部



## 九州林政連絡協議会長賞「最優秀賞」

鹿児島県川薩地区におけるたけのこの生産振興について  
生産者の高齢化等に対応した取組

鹿児島県北薩地域振興局 農林水産部林務課 前迫 俊一

鹿児島県は全国一の竹林面積を有する。中でも川薩地区は県内有数の「早取りたけのこ」の産地。しかし高齢化や後継者不足で生産量は減少、竹林の管理も十分に行き届かない状況に。このような現状を打破するため、効率的な竹林管理技術として、「川薩式ウラ止め鎌」「川薩式ウラ止め法」を考案・実施。また、伐竹等作業受委託体制を確立するため「建設業者による加工たけのこ収穫作業支援」の取組を試験的に実施し、作業効率や収穫量及び売上額ともに好結果が得られた取組事例を発表。



たけのこ生産林

## 日本森林技術協会理事長賞

コスト1/2を目指した誘導伐システム  
(帯状伐採による複層林施業)の開発

森林技術センター 釜 稔  
桑保 佳昇



スギ53年生人工林を帯状に伐採し複層林へ誘導する技術開発課題において、簡易で崩れにくい低コスト路網や高性能林業機を使用した搬出、植栽本数を半減した更新、耐陰性スギの活用や無下刈、坪刈による保育など各コストにおいて、それぞれのコスト1/2削減を目指した技術開発の経過発表。



地元TV局が取材に



木育教材等の展示

## 九州林政連絡協議会長賞

崩れにくい低コスト路網の取組について

熊本南部森林管理署 木倉 浩二  
草野 誠



平成18年度から本格導入した「崩れにくい低コスト路網」を確実に定着させるため、長期経営戦略プロジェクト 生産・販売プロジェクト 路網整備プロジェクトの3つのプロジェクトを編成し、円滑に間伐を推進した事例の発表。

実施後は、事業体等と研修会を開催。結果について相互検証や意見交換を行い、崩れにくい低コスト路網の普及に取り組んでいる。



受賞者(一般の部)



審査委員会の様子

# 表彰課題

一般の部

## 九州林政連絡協議会長賞

### 低コスト路網における列状間伐について

大隅素材生産事業協同組合

山生産業株式会社 吉重 英生

鹿児島県大隅地方の急峻な地形において、表土ブロック積み工法やC材を活用した丸太組み工法、スイッチカーブや洗い越しなど「低コストで壊れにくい路網づくり」を実践。

急峻な地形においても同工法が実行出来ることを確信し、普及に努めるとした取組の発表。



## 特別講演



『九州林業の成長と展望』

宮崎大学農学部 藤掛 一郎教授

我が国の木材需要は、今後、縮小傾向にあると予測。資源がますます成熟する中、産地間競争は激化。資源過多の状態では林業経営の利回りは低下するであろうが、立木売上げと造林補助金を得ながら山を循環させ、仕事をづくり、林業を如何に継続できるかが当面の課題。

## 九州林政連絡協議会長賞

### 南の小さな島での木材の安定的収穫への取り組み

沖縄県八重山農林水産振興センター

農林水産整備課 眞鍋 智子

拡大造林後 30 年以上経過した八重山地方のリウキュウマツ人工林の有効活用に着目。森林組合等と連携した間伐試験の実施事例。

伐採から乾燥板材生産までの経費の試算は満足できるものではなかったが、さらに乾燥技術などの試験を

重ね、資源の有効利用に努めると発表。



『熊本県における木育推進の現状と課題』

熊本大学教育学部 田口浩継准教授

熊本の現場等での木育の現状。木工を行う場合、単にモノを作らせるのではなく、木の価値や大切にすることを理解させるノウハウ、木育の意義と効果等を講演。併せて木育の普及・推進に当たり林業関係者への期待も。

## 九州林政連絡協議会会長賞

### 伐採搬出ガイドラインの策定と普及

NPO法人 ひむか維森の会

松岡 明彦

宮崎県内の素材生産事業体の若手経営者で構成するNPO法人ひむか維森の会が、環境に配慮した素材生産の推進や、作業道開設に伴う土砂災害の防止などに留意し、健全な事業活動が実行できるようにと、伐採～更新、行政への許可・届出までの

ガイドラインを策定したことと併せ、普及啓発の取組を発表。



『審査委員長』

独立行政法人 森林総合研究所九州支所

中村松三 支所長

審査委員長には、高校生の部を含む22課題について、詳しく講評を頂きました。内容は、後日刊行する発表収録集に掲載致します。

### 九州森林管理局長賞

世界に誇る阿蘇のカルデラ！  
～眠れる阿蘇の魅力発掘を目指して～  
「阿蘇の湧水を利用したワサビ栽培研究」

熊本県立阿蘇清峰高等学校 林業・農業土木科  
深山 卓実 阿部 拓海  
荒牧 健司 牧野 俊暉



厳しい林業経営への貢献を目的に始めた沢ワサビの林間栽培の研究。課題であるワサビの夏越1年目をクリア。2年目の夏越を目指す研究の中間経過の発表。

### 九州森林管理局長賞

貴重な塩性植物を守ろう  
～塩性植物の保護活動と地域の環境～

佐賀県立伊万里農林高等学校 森林工学科  
岡本 竣 前田 将史 黒川 亮  
橋口 寛史 奈良崎圭則 脇山 雄気



工業化が進む佐賀県伊万里地域。面する伊万里湾に生育している貴重な「ハママツナ」や「シバナ」などの塩性植物を守るため、地元の「塩性植物保存会」と共同で取り組んでいる保護活動の発表。

熊本県立矢部高校



熊本県立阿蘇清峰高校



熊本県立八代農業高校泉分校



県立芦北高校



佐賀県立伊万里農林高校

## はじめまして



保護林係長 茂野 潤  
12月1日付けで指導普及課保護林係長に赴任いたしました。

学生の時は地質分野を専攻し、恐竜発掘の仕事に携わるなど自分で言うのも何ですが、異色の経歴を持っています。これまで、鹿児島県の奄美大島や宮崎県の椎葉村で森林官を経験し、国有林の豊かな自然に魅せられてきました。

九州は、北は対馬から南は沖縄まで、多種多様な保護林が分布しており、これまでも大変興味を持っていました。これからは、この素晴らしい九州の保護林のために力を尽くしていきたいと思っております。

### 行事予定

1月16日  
西表森林環境シンポジウム

1月24日  
第6回実践・公開講座「竹細工」

2月16日  
九州森林技術開発協議会



指導普及課では12月5日(土) 第5回「森林のアートギャラリー」の表彰式を行いました。

森林管理局東側通りのブロック塀に、森林の役割や魅力を描いた絵を展示し、通学・通勤路を明るくしようという目的で始まったこの企画は、今年度も熊本市内の小中学校・高校を対象に下絵を募集。応募作品の8点の中から次の5点が選ばれました。

表彰式後の除幕式では、展示された作品の前で嬉しそうに先生や保護者の方々と写真を撮る児童・生徒の皆さんの姿がとても微笑ましく感じられました。

来年度も子どもたちが努力して描き上げた森林の姿をより多くの方々にPRできるよう、指導普及課全体で知恵を捻り出していきたいと思ひます。



『森と動物たち』

熊本市立奥古閑小学校 6年生  
わたしたちは、この絵に「森は動物たちに必要だから、こわさず守ってほしい」という願いを込めて描きました。だから、動物をたくさん描いて、その森を守っている人を描きました。今は森が減っています。森が減ることたくさんの動物たちが住かなくなってしまうと思います。森を守っていこうとみんなに伝えられたらいいと思います。



『共存の森』

熊本市立楠中学校 美術部  
空を見上げ木々の間からこぼれてくる光をつかむように伸ばしている手は、緑を薄くして光が当たっているような感じに描き、希望に手を伸ばしているかのような思いを込めて描きました。また、自然と動物と人とを描くことで、自然との一体感を表そうとしました。花や鳥などは自然のままの強さを押し出しています。花が思うように生長し、いきいきとしているところは特にお気に入りです。



『夜明けの森』

熊本市立桜木中学校 美術部  
朝日が森に差し込み、止まっていた森の時間が動き出したような感じを表しました。奥深くまで続く木々の重なりや、さわやかな朝の空気を感じが表れるよう工夫しました。手前にはかわいいリスたちが楽しげに遊びだし、動き出した時間を表しています。動物たちが遊び回り、豊かで美しい森をイメージしながら描きました



『LOVE NATURE ~ 一滴の生命のしずく』

熊本市立清水中学校 美術部  
私が森に行ったとき、何故かどこからか視線を感じて、振り返るとそこには誰もいませんでした。動物かとも思いましたが、まわりにはなにもなくて、違うと思いました。じゃあ何だろうとその時は思いました。今、この作品を作っていて、あのときの視線は森林そのものの生命だったんじゃないかと思ひながら描きました。



『生命を育む森林』

熊本大学教育学部附属中学校 美術部  
この作品は森の妖精がシャボン玉に森の大切な役割や魅力、恵みを乗せて飛ばしているところです。森は“緑のダム”という別名を持っているとおり、自然のダムであり、森の土に染みこんだ様々な養分を川を伝って海に流し込みます。また、地面に落ちた枯れ葉は栄養豊富な腐葉土になり、生命を育みます。そのような場面を表現しました。

# 謹賀新年



2010年 元旦  
指導普及課一同

局正門にて

新年のご挨拶  
新年明けましておめでとう  
ございます。昨年は九州森林俱  
楽部や九州森林・林業セミナー、  
実践・公開講座など、様々なイ  
ベントへ多くの皆様にご参加い  
ただき厚くお礼申し上げます。  
今年もよろしくお願ひ申し上げ  
ます。

平成二十二年元旦  
指導普及課長 石神智生

## 旬の花



コチョウワビスケ

2009.11.25 12:38

## 第5回実践・公開講座

### 世界に一つのクリスマスリースづくり

12月13日、監物台樹木園みどりの交流館において、九州森林インストラクター会の廣瀬さんや熊本大学教育学部付属中の有田先生等が講師となり、第5回実践・公開講座「クリスマスリースづくり」を開催し、7歳から80歳代までの35名が参加しました。今回、リースのリングベースには藁を利用。まず藁をリング状につくり杉の葉に似たゴールドクレストの葉やハナミズキ、ク

ロガネモチ、シャリンバイ、ネズミモチなど赤や黒い実、ヒイラギ、松ぼっくり、ドングリ、フウの実、トウガラシ等自然の素材をふんだんに使い楽しく飾り付けました。仕上げに、リボンや鐘



見て！“この出来映え”

## 編集後記

2010年の干支は「寅」。十二支の三番目に数えられる動物。細かく言うと「庚寅（かのえとら）」となるそうだ。「庚」は斧や刀など大きく硬い金属を象徴し、「寅」は、元々は「動くを意味し春が来て草木が芽を出す状態を表すとされる由来もある。一方、「虎」には「酒によって言動が荒くなった人。酔っぱらい」を意味するともされている。



今年もいよいよ指導普及課の活動開始日を迎えた。技術開発、自然再生、希少野生動植物保護管理、保護林保全、緑の普及、森林環境教育、各種会議にセミナー等々各担当係の業務は盛り沢山ではあるが、指導普及課の全員が力を合わせ「みどりと技術だより」を通じて情報を発信できるよう「動く年」としたい。

企画係長 古島 勝美

一枚からできる地球への思いやり

～九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています～



伝えたい木の文化、残したい美しい森  
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」

